

発行所／愛媛県町村会・愛媛県町村議会議長会  
〒790-0001 松山市一番町4丁目1番地2  
TEL089-941-7598(代表)  
FAX089-945-1318

## 砥部町「たらいうどん」と「陶街道名物まんじゅう」



### 「たらいうどん」

だしが決め手の「たらいうどん」。地元産のシイタケとダイズで作ったつけだれは、ほのかな甘みを醸し出す一品です。  
広田地域にある「こぶしの家」で温かい「たらいうどん」をお召し上がりください。  
また、つけだれは、道の駅「峡の館」でも販売しています。夏は冷やしてそうめんにつけだれとしても、おいしく召し上がれます。



### 「陶街道名物まんじゅう」

地域おこしグループが10年前から作り始めた「陶街道名物まんじゅう」。  
北海道産小豆の甘さ控えめのあんに広田地域の湧水で練り上げた生地を使って蒸した素朴なまんじゅうです。  
町内のイベントなどでしか販売しておらず、手作りのため数に限りがあります。  
「陶街道名物まんじゅう」ののぼりを見かけたらすぐにお買い求めください。

## Contents

全国町村長大会	2	新議長紹介	5
全国過疎連盟定期総会	3	自民党との懇談会	5
新町長紹介	3	随想 齋藤武俊愛南町議長	6
町村議会議長全国大会	4	町からのお知らせ	7
四国地区町村議長会研修会	5	一筆／11月の行事	8

# 全国町村長大会を開催

## 11月21日 NHKホールで

全国町村長大会は、11月21日東京・NHKホールにおいて、全国の931の町村長など関係者約1500人が出席。来賓に野田総理大臣、平田参議院議長、総務大臣代理の森田総務大臣政務官、高橋全国町村議会議長会長らを迎え、盛大に開催された。

大会は寺島副会長（北海道乙部町



長)の司会により進められ、はじめに藤原会長(長野県川上村長)が挨拶に立ち、大会直前に衆議院が解散したことを受け、地域社会や国民生活における様々な不安要因を取り除き、安心できる国民生活を守るための政治が期待されるとしたうえで「地域の発展のための重要課題が山積しており、我々町村長は、地域特性や資源を活かした施策を展開し、

豊かな住民生活と個性溢れる多様な地域づくりに邁進しなければならぬ。誇りある、それぞれの地域づくりのために、今後とも、町村長相互の連携を一層強固なものとし、直面する困難な課題に積極果敢に取り組んでいきたい。」と参加者に訴えた。

次に、来賓あいさつの後に、町村長へのメッセージとしてフリーアナウンサーの青山佳世さんが登場。「地方から都会に出てきた人が、故郷の重要性に気づかないまま暮らしており、そういった人達にまち・むらの大切さを伝えていきたい。この日本の大切な原点である宝を、町村の皆

さんたちがしっかりと住んで、都会に住む人達とも手を取り合って守っていき、後世の子ども達に元気で耀く町村を残していけるよう頑張りましょう」と参加者を激励。

続いて、大会議長に杉本副会長(福井県池田町長)を選出して議事に入り、「決議(案)」、「特別決議(案)」、「大会意見(35項目)」などを全て採択。実行運動方法では、都道府県ごとに地元選出国会議員等へ適宜、有効な方法で行うことを決定し、大会を閉会した。

なお、本県からは全町長と事務局職員が出席した。

### 決 議

町村の多くは農山漁村地域にあり、文化・伝統の継承はもとより食料の供給、水源かん養、自然環境の保全等、国民生活にとって極めて大きな役割を果たしてきた。

このように国民共有のかけがえない財産であり、日本人の「心のふるさと」である農山漁村を次世代に引き継いでいくことが我々の責務である。

しかしながら、町村を取り巻く環境は、急速な少子高齢化や人口流出、低迷を続ける経済情勢による税収の減少、基幹産業である農林水産業の衰退など極めて厳しく、さらにTPPに関する議論の帰趨によっては、一層深刻な状況となることが懸念されている。

加えて、東日本大震災の被災地における本格的な復興をはじめ、わが国の再生を進めていくためには、国と地方が総力を上げて取り組んでいかなくてはならない。

我々町村長は、相互の連携を一層強固なものとするともに、直面する困難な課題に積極果敢に取り組み、地域特性や資源を活かした施策を展開しながら、豊かな住民生活と個性溢れる多様な地域づくりに邁進する決意である。

よって、町村が自主的・自立的に様々な施策を展開しうよう、特に下記事項の実現を強く求めるものである。

### 記

- 1. 東日本大震災からの早期の復興をはかるとともに、全国的な防災・減災対策を強力に推進すること。
- 1. 真の地方分権改革を強力に推進すること。
- 1. 地方交付税を復元・増額するとともに、財源調整・財源保障の両機能を堅持すること。
- 1. 自動車取得税及び自動車重量税を見直す際は、町村の代替財源の確保を前提とすること。
- 1. 食料・木材自給率の向上により、農山漁村の再生・活性化をはかること。
- 1. 地域経済・社会の崩壊をまねくTPPには参加しないこと。
- 1. 国民皆保険を堅持するため、都道府県を軸とした保険者の再編・統合を推進し、医療保険制度の一本化をはかること。
- 1. 領土・外交問題に毅然とした姿勢で臨むこと。

以上決議する。

平成24年11月21日

全国町村長大会

# 平成25年度過疎関係予算・施策を要望 11/16 全国過疎連盟定期総会

全国過疎地域自立促進連盟第43回定期総会が、11月16日に東京・メルパルクホールで開催され、全国から関係者約650名が出席。本県からは三好会長（西予市長）や、関係市町長、議長らが出席した。

総会は、蓼沼専務理事の司会で進められ、はじめに溝口会長（島根県知事）が挨拶を述べた後に、来賓の総務大臣（武居総務省大臣官房地域力創造審議官代理出席）からの祝辞に続いて国会議員や関係省庁の関係者を紹介。祝電披露のちに議事が進

められ、第1号議案の「役員承継及び選任」が行われた。

次に、第2号議案の「平成25年度過疎対策関係政府予算・施策に関する決議・要望」については、別掲のとおり決定。

最後に実行運動方法を決定して、盛會裏に終了した。  
なお、総会終了後、三好会長が本県選出国会議員に対し、要望方実行運動を行った。

## 新町長紹介

任期満了に伴う上島町長選挙が11月4日に行われ、投票の結果、現職の上村俊之氏が再選された。

上島町長  
上村俊之氏



### 過疎対策の積極的推進のための要望

過疎地域は、我が国の国土の過半を占め、豊かな自然や歴史・文化を有するふるさとの地域であり、都市に対する食料・水・エネルギーの供給、国土・自然環境の保全、いやしの場の提供、災害の防止、森林による地球温暖化の防止などに多大な貢献をしている。

過疎地域が果たしているこのような多面的・公益的機能は国民共有の財産であり、それは過疎地域に住む住民によって支えられてきたものである。

人口減少と少子・高齢化が急速に進んでいる今日、過疎地域では、多くの集落が消滅の危機に瀕するなど、極めて深刻な状況に直面しているが、過疎地域が安心・安全に暮らせる地域として健全に維持されていくことが、多面的・公益的機能の維持と、ひいては都市も含めた国民全体の生活の向上につながることを認識し、引き続き過疎地域に対して総合的かつ積極的な支援を行い、住民の暮らしを支えていく政策を確立することが重要である。

よって、下記事項について特段の配慮を強く要望する。

記

- 1 過疎市町村の財政基盤の確立  
地方交付税を充実し過疎市町村の財政基盤を強化するとともに、過疎対策事業債の必要額を確保し、道路・橋りょうの維持補修などに過疎対策事業債を適用する対象事業の拡大を図る
- 2 住民が安心・安全に暮らせる生活基盤の確立  
医療の確保、交通の確保、雇用の確保、教育環境の整備等を、広域的な事業による対応も含めて積極的に推進し、住民が安心・安全に暮らせるための生活基盤を確立する
- 3 高度情報通信等社会の恩恵を享受できるインフラの整備  
過疎地域においても高度情報通信等社会の恩恵を享受できるよう、高度情報通信基盤、高規格幹線道路等の道路網の整備を図り、地域社会の活性化を促進する
- 4 地域資源を活用した産業の振興と雇用の創出  
森林の管理、農地の利用、地域資源を活用した観光及び地場産業の振興等過疎地域の環境と特性を活かした産業振興を支援し、新たな雇いを創出する
- 5 集落対策の促進と地域の活性化  
集落対策、都市との交流、多様な主体の協働による地域社会の活性化と人材の育成・活用等による総合的な集落対策を積極的に推進する

### 平成25年度過疎対策関係 政府予算・施策に関する決議

- 1 地方交付税による財源保障機能の充実強化を図ること
- 2 過疎対策事業債の必要額を確保すること
- 3 住民が安心・安全に暮らせる生活基盤を確立すること
- 4 高度情報通信・高速道路社会の恩恵を享受できるインフラの整備を図ること
- 5 地域資源を活用した産業振興を支援し、新たな雇いを創出すること
- 6 集落対策と地域社会の活性化に対する支援を強化すること

以上、総意をもって決議する

平成24年11月16日

全国過疎地域自立促進連盟

# 第56回議長全国大会を開催

全国町村議会議長会は、11月14日東京・NHKホールにおいて、全国の町村議会議長など関係者約1700人の出席のもと、「第56回町村議会議長全国大会」を開催した。大会は江端事務総長の司会により進められた。

はじめに小坂副会長（徳島県）の開会のことばに始まり、国歌斉唱に続いて高橋会長（群馬県）が「町村議会の総意を結集して真の分権型社会の実現を達成する決意である。」と挨拶を述べた。

次に、大会の意義を鮮明にするため宣言を採択。続いて来賓の内閣総理大臣（代理）、横道衆議院議長、平田参議院議長、樽床総務大臣、安住民

主党幹事長代行、石破自民党幹事長、藤原全国町村会長から祝辞があった。

次に、議長団を選出して議事に入り、まず要望事項24件、四国地区ほか8地区の要望9件、豪雪地域の要望、決議を採択。さらに「東日本大震災の早期復興と大規模災害対策の確立に関する特別決議」など4の特別決議など4件の特別決議を満場一致で採択することに決定した。

続いて実行運動方法を決定した後、「ガンバローコール」を行い、盛会裏に大会を終了した。

大会終了後、「地方財政の現状と課題」と題して地方財政審議会長・東京大学名誉教授の神野直彦氏から特別講演が行われた。

## 新議長紹介

11月14日の上島町議会臨時会において議長の選挙が行われ、土居計彦氏が就任された。

上島町議会議長

土居計彦氏



### 東日本大震災からの早期復興と大規模災害対策の確立に関する特別決議

昨年3月11日に発生した東北地方太平洋沖地震は、我が国にとって未曾有の大災害をもたらし、その影響は全国に及んでいる。

国は、これまで様々な財政措置、所要の法整備を行うなど、被災地を支援する体制を構築してきたところであるが、本格的な復興に向けた歩みは遅く、国と地方が力を合わせて総合的に取り組む必要がある。

特に、福島第一原子力発電所事故については、ふるさとへの帰還を一刻も早く実現するため、除染、損害賠償、避難住民への支援等を国の責任において推進すべきである。

また、将来、想定される南海トラフ巨大地震、首都直下型地震等の大規模地震や台風、集中豪雨等による大規模災害に備え、災害対策を抜本的に見直すべきである。よって、下記事項の実現を図るよう、強く要請する。

記

- 被災地域が一刻も早く復興できるよう、平成25年度以降も引き続き必要な財源を確保すること。
- 被災自治体に対する人的支援等が中・長期に亘り円滑に行えるよう、平成25年度以降も派遣体制の整備と財政措置を講じること。
- 災害廃棄物の広域処理について、国の責任により、全国の自治体の理解と協力を求めるとともに、それに係る経費は全額国の負担として実施すること。
- 地域産業の復興支援のため、「農業・農村の復興マスタープラン」及び「水産復興マスタープラン」に基づく施策を速やかに実施するとともに、震災や風評被害を受けた商工業や観光事業等に対しましては、税財政支援や金融支援等、各支援策の拡充・強化を図ること。
- 福島第一原子力発電所事故により生じた直接被害や風評被害及び地方公共団体の減収等の損害について、損害の範囲を幅広くとらえ、全て賠償の対象とするとともに、賠償金の支払いを迅速化すること。
- 将来、発生が予想される地震・津波等による大規模かつ広域的な災害に対応するため、災害対策法制の抜本的な見直しを図ること。

以上、特別決議する。

平成24年11月14日

第56回町村議会議長全国大会

### 宣言

我々町村は、国民の生命を支えるため、食料供給、水源涵養、国土保全に努め、伝統・文化を守り、自然を活かした地場産業を創出し、個性あるまちづくりを進めてきた。

しかしながら、長引く景気の低迷に加え、歴史的な円高やデフレなどの影響から経済・雇用情勢は悪化し、地域の活力は減退の一途をたどっている。さらに東日本大震災による社会的・経済的な影響は、被災地のみならず我が国社会全体に及んでいる。こうした中において、町村は、以前に増して厳しい立場に立たされている。

このような状況を打開し、地域を再生するためには、東日本大震災の復興を、引き続き集中的・積極的に実施するとともに、自治能力を高め、都市と農山漁村が「共生」しうる社会を強力に進めていくことが重要である。

国は、地方分権改革を推進するため、本年、第1次一括法及び第2次一括法を制定したが、依然として残された課題は多く、これまで以上に全国町村の声に十分耳を傾け、真の分権型社会が実現されることを大いに期待するものである。

我々議会は、本日、「第56回町村議会議長全国大会」を開催し、一致結束して、果敢に行動していくことをここに誓う。

以上、宣言する。

平成24年11月14日

第56回町村議会議長全国大会

# 第53回四国地区町村議会議長会研修会を開催

## 四国地区町村議会議長会

恒例の四国地区町村議会議長会研修会が、今年は香川県当番により、11月6日高松市で開催され、四国各地から町村議会議員ら560名余が出席し盛大に開催された。

研修会は、定刻午後1時に開会。はじめに四国地区会長である蓬香川県会長が開会の挨拶を述べた後、自治労者の表彰に入り、町村議会議員として19年以上在職し、地方自治の振興に寄与された6名の方々に對する四国地区町村議会議長会表彰が行われた。



閉会のことばを述べる林本県会長

次に講演に入り、同志社大学大学院総合政策科学研究科教授の新川達郎先生から「自治体議会の災害対応」アートディレクターの北川フラム先生から「瀬戸内国際芸術祭と海の復権」と題する講演があり、これを聴講。

最後に次期当番県の林愛媛県会長が閉会のことばを述べ、午後4時30分に閉会した。

全国町村議会議長会代表者と自民党幹部との懇談会が、議長全国大会に先立つ11月13日同党本部において開催され、都道府県町村議会議長の会長・局長ら100人が出席した。

この懇談会は、「町村議会議長全国大会」の開催に合わせて、大会で決定する決議・要望等の実現方について要請するため、毎年行われているもの。

懇談会は、司会を務める柴山自治関係団体委員長のあいさつに続いて、高橋全国町村議会議長会長のあいさつを行った。

次いで、高村副総裁、石破幹事長、横手参議院幹事長、横田総務会長からあいさつがあった。

### 自民党幹部との懇談会を開催

11月13日 自民党本部で

この後、東日本大震災からの復興及び大規模災害対策、TPP、町村税財源の充実強化、離島振興、原発鳥獣被害対策と林業の育成強化等町村が抱える課題について、活発な意見交換が行われた。



同志社大学大学院総合政策科学研究科教授 新川 達郎 先生



アートディレクター 北川 フラム 先生

# 随想

## 「サッカーによる 人材育成とまちづくり」

愛南町議会議員 齋藤武俊



愛南町が誕生して早いもので8年余りが経過しました。当時、各地で市町村合併の機運が高まりを見せる中、法定協議会を県下の先駆けとして立ち上げ、5町村それぞれの歴史や愛着があるがゆえに曲折のあった調整項目についても、「愛するふるさと南郡」を思う心は一つの気持ちで、各種協議が進められたことを懐かしく思い出します。

その根底には、何と云っても郡内唯一の南宇和高校の存在が大きな要因であったと思っています。つい先頃まで、1学年10クラスという県下でも大規模校でしたが、今では少子化の影響もあって1学年5クラスと半減しているものの、同世代であればほとんどが南高を介して面識があります。加えて、今ではもう古い話にもなりますが野球部の春夏甲子園出場、そして常勝サッカー部の平成2年の全国高校サッカー選手権大会での初優勝は、郡民ならずとも近畿や関東といった南高同窓会各支部の方々にも揺るぎない愛郷心を再認識する機会ともなり、その一体感が合

併に向けた大きな原動力になったものと確信しています。

さて、私は南宇和高校サッカー部OBの1人です。残念ながら、国立競技場での歓喜の瞬間には、サッカー協会の留守番役として同じ空気を味わうことはできませんでしたが、国立のスタンドではじけた応援団と一緒にテレビの前で涙したあの興奮と感動は、一生の宝として忘れることはないと思います。すばらしい後輩達のお陰で、OBとしてこんなにも誇らしく思えたことには、心から感謝したいと思います。

今、母校でもある平城小学校で、週3回2時間程度、子供達にサッカーを指導しています。優勝した当時のメンバーには直接関わっていませんが、指導歴はすでに30年余りとなりました。当初は、まだまだ野球少年の方が多い時代ではありましたが、その直後にはJリーグが発足



し、にわかにサッカー少年が増加した時期ともなりました。とかく「最近の子供達は・・・」と、いつの時代でも耳にする言葉ですが、私自身はどの時代の子供達も純粋で素直で何の変わりもないと感じています。

ノリさんこと、なでしこジャパンを世界の頂点へ羽ばたかせた佐々木則夫監督も愛媛県出身のインテル・ミラノで活躍中の長友佑都選手も立場は違うものの「まずは大好きなサッカーを存分に楽しむこと」を一番に掲げています。私もまさに同感でありまして、決してサッカーが小学校だけで終わることないよう各学年にあった楽しいサッカーの指導を常に心がけてきました。もちろん、自らが子供好き、スポーツ好き、ましてやサッカー好きだからこそ、これまで続けることができたものと思っています。

「ゴールデンエイジ」という言葉があります。10歳から12歳までに人間の神経系の発達成人の90%に達することを言うもので、この時期にボールコントロールやボールタッチ等の技術は形成されるため一番伸びる技術をしっかりと修得させる時期だと言われます。戦術や理論は中学生以降、とにかく悪い所を叱る事よりも良い所を誉め、小さな自信を積み重ねる事で、しんどいながらも自分から楽しく頑張ろうとするやる気を育てることを優先して取り組んできました。

また試合に勝つこともチームにとっては大切ですが、元気なあいさつや人に感謝する心といった人間としての基本部分の徹底も重視しています。教えた子供達が、すでに40歳位を

筆頭に現役の小さな子供達まで「齋藤さん」と親しく声をかけてくれることが何よりうれしく、ふるさと愛南町の後継者として多分野において活躍してくれる人材に育ってくれることが大きなやりがいであり楽しみななっています。

2017年開催予定の愛媛国体において、女子サッカー会場として愛南町も利用される予定となっています。全国大会初優勝を契機に整備された天然芝の専用グラウンド1面だけの既存設備であり、今一度、サッカーの町、愛南町民の心を結集して、競技会場の整備要望を推進するため、署名活動も始めています。

愛媛の南、愛南町にも寒い季節の到来となりましたが、今日も運動場に響く子供達の元気な声に笑顔に、更なる元気をもらいながら、夢よう一度、サッカーを通じた愛南町のまちづくりに貢献していきたいと考えています。





昨年引き続き、海のミルクとも称される愛南町の冬の味覚「かき」をアピールするため「第3回うまいもん市inあいなん」を開催します。

当日は、オープニングでの餅まき、海や山の特産物の販売など楽しい催しがありますので、お誘い合わせの上、ぜひご来場ください。

- 日時 1月20日(日) 9時30分～15時
- 場所 南レクロッジ駐車場周辺
- 内容
  - ・ かき食べ放題
  - ・ かき数当てウルトラクイズ
  - ・ 大鍋による「かき鍋(かき汁)」
  - ・ 農水産物や郷土料理の販売
  - ・ 餅まき など

◆お問い合わせ  
 愛南町観光協会  
 (☎0895-73-0444)  
 商工観光課  
 (☎0895-72-7315)

◎ 第3回  
 うまいもん市  
 inあいなん  
 開催のお知らせ

愛南町

町からの  
 お知らせ

あいなん自慢の新鮮な海の幸!

アツアツかきが食べ放題!

特産品もたくさんあるよ!

第3回 うまいもん市 inあいなん

日時 平成25年 1月20日(日) 9:30~15:00

会場 南レクロッジ周辺  
ホテルサンパール横

＜駐車場＞  
南レク御荘公園駐車場、多目的グラウンド

豊かな海ゾーン

- かき食べ放題コーナー (有料: 2,000円/焼き、蒸し)  
10:00~14:45 (1時間繰り入れ替え・当日受付) 先着360名様限り
- 大鍋による「かき鍋(かき汁)」のサービス  
10:00~ [数量限定]
- かき・扉扇貝・寒ブリその他海産物加工品の販売
- かき数当てウルトラクイズ (山盛り揚げかきの数当て)

懐かしい里ゾーン

- 冬の特産品(農産物)加工品や郷土料理の販売
- 餅つき体験コーナー (よもぎ餅・いも餅等) ・10:00~

特別企画

- マグロの解体ショー
- 餅まき(2回) 他 ・9:30過ぎ/14:50~

主催:愛南町観光協会 共催:愛南町

協 賛/愛南漁業協同組合・久良漁業協同組合・遊任かき生産組合・南内海支所かき組合・南レク株式会社・JAえひめ南・愛南町商工会・サンパール観光地・愛南グリーンツーリズム推進協議会  
 後 援/愛南新聞社・NHK松山放送局・南海放送・テレビ愛媛・あいテレビ・愛媛朝日テレビ・愛媛CATV

◆お問い合わせ◆愛南町観光協会(通の駅みしょうMIC内) TEL0895-73-0444 愛南町商工観光課 TEL0895-72-7315



### 理性で未来を

「分け入っても分け入っても 青い山」  
 「さて どちらへ向かう 風が吹く」  
 「まっすぐな道で 寂しい」  
 「この道しかない 春の雪ふる」  
 「捨てきれない 荷物の重さ前、後」

これらは明治の放浪の俳人、酒好きの種田山頭火の作品である。何事にもとらわれない生き方から、俳句の5・7・5と季語にとらわれない自由な俳句を目指した俳人である。

明治15年12月山口県防府の大地主の長男として生れ、父の放蕩と破産、9歳の時母親が自殺、21歳大学中退、37歳で離婚、52歳で自殺未遂。放浪の旅から56歳の時、悩みを断ち切るため旅から松山(愛媛県)の「草庵」へ落ち着き、57歳でこの世を去った。

さて今、政界は乱世? になったのであるうか。いや、かつて経験のなかった時代環境に遭遇したため、新策の入り口を懸命に探し、新しい日本造りを目指しているのであらう。3・11から1年8か月経った。復興の太鼓が用意されても、叩く所が違うのか響かない。叩き手は、名前よりも心の通う人が求められているのだらう。被災者は未だ仮設住宅に暮らし、県外等の集団避難先から故郷へ帰れない現実を厳しく寂しい。年末も冬の寒さも直ぐそこである。各それにしても口惜しく感じる。各

分野において、平常時それぞれの道の専門家として看板を挙げるなら、範疇内の事、ある程度は想定(対策)は出来たであらうに。どうも横の連携不足か、自己保身が禍してか、コミュニケーションの欠落による徹底不足か、無策に近い未対応の結果が出たようにも見える。

今や、『地震の予知は出来ない』が通説になりつつある。何時か起きる事は間違いない現象、南海トラフ巨大地震をはじめ地震列島にある以上、除外地域は皆無であり、各地がその環境から逃れられない。いわずもがなである。要は、何年か先の完成計画にあらす対応策の実現を急ぐべきであらう。事後処理費より、事前対応費の方が安価で安心も得ることとなる。一度に大被害を被るなら一気にせめて減災の対応投資を断行してほしい。勿論『全て分かっている。』であらうし、先立つものがあるが、躊躇するよりまず将来を見据えた即実行あるのみであらう。

山頭火の遺作『濁れる水の 流れつつ澄む』のように、落着いて生きたところであるが、皆が悠長に濁れ水が澄むまで待つ時間はない。後で悔やまないようにやるべき時を失わず、やらねばならないのは。現下、防災のみならず政治、経済、社会環境等、かつてない。危機の時にあると自覚あるならば、理性で未来を築く方策を皆で醸し出せるはず。

「何事も後悔しないと云うことこそ、一切の知恵のはじまりである」

(ルードヴィッヒ・ベルネ  
ドイツの政治的文芸評論家)

## 11月の会と催し

- ▽1日 四国四県市町村振興協会事務連絡会議、拉致被害者救出の愛媛10万人署名運動実行委員会「救う会愛媛」役員会合同会議
- ▽3日 平成24年度愛媛県功労賞授賞式、平成24年度愛媛県教育文化賞受賞式
- ▽6日 第53回四国地区町村議会議長会研修会
- ▽7日 第60回愛媛県傷痍軍人会連合会・第44回愛媛県傷痍軍人妻の会合同会議、愛媛県町村議会議長会東日本大震災被災地(岩手県山田町)視察
- ▽8日 平成24年度議長研修(市町村アカデミー議員特別セミナー受講)(9日まで)、(財)全国市町村振興協会平成24年度地区幹事会
- ▽12日 第133回愛媛県都市計画審議会、愛媛県地方税滞納整理機構県への支援継続要望
- ▽13日 全国町村議会議長会自由民主党との懇談会、愛媛県行政改革・地方分権推進委員会
- ▽14日 第56回町村議会議長全国大会、(株)平野損害調査事務所査定専門員研修会、平成24年度愛媛県人権・同和教育研究大会
- ▽16日 全国過疎地域自立促進連盟第118回理事会、同第43回定期

### 総会

- ▽20日 内外情勢調査会松山市部懇談会、平成24年分年末調整説明会、全国町村会正副会長会、同理事会
- ▽21日 全国簡易水道協議会平成24年度第3回理事会、全国町村長大会
- ▽22日 水産業振興・漁村活性化推進大会定期総会、第57回簡易水道整備促進全国大会、全国山村振興連盟通常総会、国保制度改善強化全国大会、全国観光地所在町村協議会総会、平成24年度公益法人会計実務研修会
- ▽26日 退職手当事務総合処理システムWindows7対応版基本機能説明会
- ▽28日 平成24年度町議会議事務局長会議及び地方自治法の改正に伴う説明会、愛媛県共済団体暴力団等対策連絡協議会第28回役員会ならびに第24回総会
- ▽29日 自治労愛媛県本部からの申し入れ、全国合併処理浄化槽推進市町村協議会平成24年度通常総会
- ▽30日 平成24年度秋季副町長会

